

令和3年度 さいたま市立中尾小学校 自己評価書

校長 田口 幸久

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業の実現に向けて、授業改善、指導方法の工夫に努め、学ぶ楽しさ、わかる喜びを味わえる授業を展開し、基礎学力の向上を図る。
- (2) いじめ・不登校ゼロを目指し、生徒指導や教育相談の充実を図り、組織的に対応する。
- (3) 児童の安心・安全を保障するために、保健指導・食育指導・安全指導を充実させる。特に安全指導においては、地域人材の積極的な活用を図る。
- (4) コロナ禍においても、保護者や地域が学校の教育活動への理解を深めることができるよう、迅速で丁寧な情報公開や学校公開を行う。
- (5) 学校行事を見直すとともに、教職員が学校業務改善計画を立て、ワークライフバランスの充実を図る。

2 評価結果について

- (1) 「授業」については、約93%の児童と約98%の保護者が肯定的な評価をしている。また、「基礎・基本の定着」については、約97%の児童と約92%の保護者が肯定的な評価をしている。11月に行った今年度2回目のよい授業アンケートにおいては、因子①「授業マネジメント」、②「基礎アップ」、④「アクティブ・ラーニング」で、昨年度の市平均0.7~0.9ポイント上回り、因子③「授業スキル」で1.4ポイント上回るという結果となった。研修においては、昨年度、算数科の学習の流れをまとめた「中尾小スタンダード」を作成した。今年度は、その内容をさらに精選したものを「中尾小スタンダード第2版」とし、それに基づいた授業実践をしている。また、朝の算数タイムにおいて児童自らプリントを選択して取り組む算数検定を行うことで、児童の基礎学力の向上につながっていると考えている。
- (2) 今年度11月までの期間で、不登校を主な理由とする欠席が15日を超過している児童は9名おり、昨年度同時期の6名と比べると、3名増加している。いじめ被害については、11月までの期間で11件を認知しており、昨年度同時期の2件と比べると9件増加している。「いじめに対する取組」については、約97%の児童と約96%の保護者が肯定的な評価をしている。一方で、「生徒指導・教育相談」については、約17%の児童と約5%の保護者が否定的な回答をしており、改善が必要である。
- (3) 「食育指導・保健指導」については、約97%の児童と保護者が肯定的な評価をしている。保健指導では、手洗いの徹底、朝の確実な体調管理、室内の密を避ける過ごし方等について、養護教諭を中心に校内に呼びかけてきた。食育では、毎月給食部と図書部の連携による絵本給食の他、シェフ給食、セレクト給食、給食週間など、栄養主任や給食主任を中心に様々な取組を行ってきた。安全指導の登下校については、防犯ボランティアや管理職、保護者当番を中心に毎日の見守りを継続しており、「地域連携」については約98%の保護者から肯定的な評価を受けている。一方で、登下校等の際の挨拶については、約17%の保護者が否定的な回答をしており、校内組織の取組や保護者・地域への働きかけを通し、早急な改善が必要である。
- (4) 「学校行事の運営」については約93%、「開かれた学校づくり」については約90%の保護者より肯定的な評価を受けている。新型コロナウイルス感染症の拡大により、保護者の来校や地域との交流に制限のある中でも、学校ホームページや学校安心メールを積極的に活用して情報発信したり、体育発表会を保護者に向けて公開したりし、学校の取組や児童の様子を伝えてきた。約1割否定的な意見があるため、真摯に受け止め対応を協議していく。
- (5) タイムカードによる勤怠管理で、職員一人ひとりが勤務時間外の在校時間を把握するとともに、月に2回の定時退勤日の設定、学期に1回の計画的な年次休暇の取得により、ワークライフバランスの充実に努めている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・児童会が主体となって計画した「あいさつ運動」の取組や、生徒指導朝会や道徳の授業で挨拶の大切さを学ばせる指導を進め、学校内外で積極的にあいさつをかわそうとする児童を育てる。また、学校・家庭・地域が一体となって取り組めるよう、まず教師が率先して挨拶を行っていく。
- ・教育相談日や教育相談週間、お手紙ポストや「心と生活のアンケート」をもとに、児童に発生しているいじめや心の問題を早期に発見し、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携することで、迅速で効果的な教育相談活動を一層推進する。また、毎月末に行う生徒指導・教育相談部会を活用して、校内への情報共有を確実にを行い、組織的な対応にあたる。
- ・学校ホームページを積極的に活用したり、保護者が学校での児童の様子を知る機会を増やしたりする。そのために、学校ホームページの活用やタブレットの活用に関する校内研修に取り組んだり、感染症対策を十分に講じた上で、授業参観や学校公開等を適切に設定したりする。